

高校生 まちづくりスクールミーティング

令和7年度テーマ

# 小牧の 未来 予想図

令和7年度  
高校生まちづくり  
スクールミーティング  
～小牧の未来予想図～

## 実施報告書

## 小牧工科高校生が描く「小牧の未来予想図」

高校生が「まちづくり」への関心を高め、自ら主体的に関わる意識を醸成することを目的として「高校生まちづくりスクールミーティング」を開催しました。

今年度は、小牧工科高等学校の生徒15名が参加。「小牧の未来予想図」をテーマに、工科高校ならではの技術的な視点から小牧の未来をどう変えていくか考えるワークショップを行い、その成果としてまとめられたアイデアを伊木副市長（市長代理出席）へ直接提案しました。



## 1. 開催概要

### DAY1：小牧の未来予想図を描こう!!

実施日：令和7年10月14日(火) 15:30-17:00

「小牧の未来予想図」をテーマに、自分たちの得意な技術と街の課題を結びつけ、ワークシートを用いながら新しいサービスを考案するワークショップを開催。

#### ●ワークショップの内容

- ① 関心のある技術の選定：着目した技術の持つ強みを具体化。
- ② まちの課題発見：小牧市の現状から「困っている人」を想定。
- ③ アイデアの具体化：課題と技術を組み合わせ、サービス名や提供価値を考案。
- ④ 実現に向けた検討：実現に向けた段階的なステップを考案。
- ⑤ 未来予想図の作成：3年後、5年後、10年後の街の変化を予測。

### DAY2：市長にプレゼン会!?

実施日：令和8年1月21日(水) 15:30-17:00

DAY1で考案したアイデアを整理して仕上げた発表資料を伊木副市長へ直接プレゼンし、質疑応答や講評をいただきました。

#### ●各チームの提案内容

A チーム：Iwashima「立体翻訳機」

B チーム：チーム俺以外テニス部「コマキライナー」

C チーム：工科 JK「KOMAKI 情報パネル」

## 2. 各チームの提案内容

### A チーム：Iwashima 【提案内容：立体翻訳機】



#### まちの課題

小牧市に住む・働く・観光に来る外国人が、日本語の読み書きや案内板の理解、店員とのやり取りで「言葉の壁」を感じ、不安な気持ちになっている。

#### 解決策（新サービス）

街中に「立体翻訳機」を設置。カメラで文字を読み取る「画像認識 AI」と、声を翻訳する「音声対話 AI」を組み合わせ、多言語で画面表示・音声案内を行う。

#### ●メリット

スマホを取り出す手間が省け、歩きスマホの防止にもつながる。近づくだけで人種や言語を認識し、案内を開始する。

#### ●実現までのステップ

1～2 週間のスモールスタート（駅や公共施設）でデータを収集し、10 年後には世界中の都市へ普及させる。

#### -副市長のフィードバック-

小牧市は全国でも外国人比率が高く、生活者としての外国人が多い街であるため、非常に「小牧らしい」着眼点である。スマホにも機能が付いているものの、あえて立体翻訳機として「スマホを取り出さない」という選択は、歩きスマホ防止の観点からも非常に面白い発想。

## B チーム：チーム俺以外テニス部【提案内容：コマキライナー】



### まちの課題

車を持っていない高齢者や学生の市外への移動手段が限られている。電車が通っていない方向もあり、通学や通院、買い物に時間とお金がかかっている。

### 解決策（新サービス）

自動運転技術を活用した「コマキライナー」。センサーによる運転支援でヒューマンエラーを削減し、屋根の太陽光パネルと蓄電池で走行する。

#### ●メリット

一般道路を活用し、岩倉・春日井など隣接市へのアクセスを拡大。GIS（地理情報システム）連携で渋滞を回避した定時運行を目指す。運賃は300円程度を想定。

#### ●実現までのステップ

3年後に小牧市内で走行開始、5～10年後には周辺市町村を網羅する。

### -副市長のフィードバック-

市外へのアクセスは市民アンケートでも長年の課題。「自治体の枠を超えて市外へつなぐ」という発想は、市としてもまさに今考えるべき時期に来ており、非常に鋭い着眼点。実現までのステップも愛知県は他の自治体と比べて少し遅れているくらいのため、スピード感があってとてもよい。

## C チーム：工科 JK【提案内容：KOMAKI 情報パネル】



### まちの課題

公共 Wi-Fi が少なく情報アクセスが不便。特に高齢者がデジタルでの情報発信から取り残されやすい。

### 解決策新サービス

市内各所に Wi-Fi スポットを兼ねた「タッチパネル式の情報パネル（デジタルサイネージ）」を設置する。

### ●メリット

誰でも簡単にバスの時刻表やイベント情報を確認できる。災害時には避難場所を表示。自宅にネット環境がない人でもパネル周辺で Wi-Fi を利用可能。

### ●実現までのステップ

人が集まる場所で1か月間の試験運用を行い、どれくらいの人が使ったか、どの情報がよく見られたか、誰にでも使いやすかったかといったデータや意見を集め、小牧市全体に展開していく。

### -副市長のフィードバック-

若い世代は 8 割以上がスマホを利用しているが、Wi-Fi が至る所で使える環境は間違いなく必要。単体の機能ではなく、前述の「翻訳機能」などと組み合わせることで、より強力なサービスになる。

### 3. 副市長による全体講評

---

#### ●発表を終えて

今日一日、本当にお疲れ様でした。皆さんが一生懸命考えたアイデアは、どれも斬新で素晴らしいものばかりでした。自分たちの街「小牧」をしっかり見つめ、その課題をどう解決して未来に繋げていくか。その一貫した想いが伝わるプレゼンテーションでした。特に、外国人の多さや市外へのアクセスの難しさといった、小牧ならではの課題を的確に捉えていたことを、非常に心強く感じました。立体翻訳機は、外国人の方が多く住む小牧にとって、非常に斬新で心強いアイデアです。コマキライナーは、市外へのアクセスという長年の難問に挑んでくれました。これは人口減少への対応や街の安心・安全にもつながる、これからの日本にとって大切な視点です。KOMAKI 情報パネルは、多くの人がスマホを持つ今の時代、どこでも Wi-Fi が使える環境は、まさに街の利便性を高める鍵になると思います。

#### ●これからのヒント

それぞれのチームの案はどれも素敵ですが、これらが「組み合わせる」ともっと面白いことが起きるはずです。たとえば、パネルに翻訳機能をつけたり、交通システムと連動させたり。皆さんの知恵を掛け合わせることで、一人では思いつかないような、さらにワクワクするサービスへと進化していきます。ぜひ、これからも自由で広い視野を持ち続けてください。

#### ●次世代を担う皆さんへ

皆さんが自分たちで学び、考え、形にしてきたそのプロセスに、何よりの価値があります。皆さんの熱意に、私自身もたくさんの勇気をもらいました。小牧市は「夢・チャレンジ発祥の地」です。これから何かを始めるときは、ぜひ仲間と意見を出し合ってください。「それは無理だよ」と否定するのではなく、「こうしたらもっと良くなるかも！」と相手の言葉に耳を傾けること。それが活動を楽しくし、関係を円滑にする秘訣です。

今回の経験を自信にして、進学や就職など、それぞれの道で頑張ってください。皆さんがこれからの社会を支える原動力になってくれることを、心から期待しています。

## 4. 参加者の声（自由記入欄まとめ）

### ■ スクールミーティングを通じた学び

「自分たちとは違う年代の視点で街を考えることで、考えるコツのようなものがわかりました。」「住んでいる街で新しい課題をたくさん見つけれられたので、今後の生活にも役立たいです。」「高校生の目線をもっと大切にして、これから工業の力で街の課題を解決していきたいと思いました。」

### ■ チーム協力・交流の感想

「最初は難しく感じたけれど、チームで協力したからこそ、今日の発表がとても良いものになったのでよかったです。」「部活以外で先輩と関わる機会があまりなかったので、一緒に取り組めてとても楽しかったです。」

### ■ プレゼンテーションを終えて

「本番は緊張して言葉が詰まってしまったけれど、副市長からの質問に答えられたので自信になりました。」「プレゼンというとても良い経験ができました。練習不足を感じた部分もあったので、この経験を次に活かしたいです。」

### ■ 私たちが街に望むこと

「とにかく Wi-Fi がほしいです！街のあちこちで使えるようになると嬉しいです。」「通学路の自転車通路を整備してほしい。車道の端が狭くて、毎日自転車で通るのが怖いです。」「スクールバスの導入や、道路を走りやすくきれいに整備してほしいです。」「外国人が増えるのは良いことだと思いますが、マナーなどの困りごととも解決していけたらいいなと思います。」

